

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①特色ある国際理解教育と「総合的な探究の時間」に係る研究と実践をとおして、探究的でグローバルな視野を持つ人材を育成する。</p> <p>②「育てたい生徒像」を見据え、共通性と多様性のバランスに配慮した教育課程の策定と実施を図るとともに、特別活動の充実をめざす。</p> <p>③「主体的・対話的で深い学び」をめざし、授業改善を実施する。</p> <p>④基礎的な基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>①特色ある国際理解教育を継続的に実践する。SDGsに係る探究の研究指定3年目として「総合的な探究の時間」については、これまでの取組みを総括し、研究指定最終年度の取りまとめを行う。</p> <p>②特別活動の充実をとおして自己理解を深め、自己肯定感を高める支援を行う。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」を昨年に引き続き校内共通のテーマとし、ICTを活用した授業づくりをテーマとした授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の養成および生徒の主体的な学習態度を養う。</p>	<p>①姉妹校交流の実践的活動を行い、生徒の英語利用の場面を設定する。また、GTECや英検等の試験を通して、国際理解への意識づけを行う。</p> <p>・3年生が行ってきたSDGsの探究的活動を1・2学年に確実にフィードバックし、より精選した取組を行う。</p> <p>②特別活動の実施において、生徒自身が考え、主体的に活動できる場面を設定し、「自ら考え行動する人材を育成する。</p> <p>③④「ICTを活用した学校における学習と家庭学習の連携」を共通のテーマとし、授業研究を進める。</p> <p>④教科学習やSDGs探究活動においてGoogle Classroomを活用し、生徒の基礎学力・主体的な学習態度を養う。</p>	<p>①国際理解教育を意識した実践的な活動を継続的かつ発展的に行うことができたか。</p> <p>・英検等の外部試験の受験者が昨年度より増加したか。</p> <p>②年間を通じての生徒の自己評価において、特別活動に主体的に取り組んだと考える生徒の割合が全校生徒の7割を超えているか。</p> <p>③④前期、後期において授業公開及び授業研究を行い、Google Classroom等、ICTを活用した授業が実践できたか。</p>	<p>①コロナ禍で姉妹校交流は実施できず、継続の意思確認のみに終わった。</p> <p>・英検の受験申込総数は前年度よりとほぼ同数であった。</p> <p>・探究活動についてはコロナ禍で実施可能なものに精選して取り組んだ。</p> <p>②各行事に主体的に取り組んだかという5段階評価の質問に対し、4以上の評価の合計が、体育祭では6割を超え、文化祭では、7割を超える回答を得た。</p> <p>③④教員同士の授業公開を行った。またオンライン授業実践を考え、機材を充実させた結果、より効果的なGoogle Meetを活用した双方向授業が可能となり基礎学力の定着を意識した授業を行うことができた。Google Classroomを積極的に活用した授業実践もできている。</p>	<p>①姉妹校交流について、オンラインの活用を視野に検討する。</p> <p>・検定試験は英検に限らず、様々なものを生徒に紹介する。</p> <p>・探究活動について、オンラインを活用した取り組みを増やす。</p> <p>②すべての学校行事で、生徒が主体的に取り組む意識を高める工夫や、学校全体での行事への連携強化の必要性がある。また、委員会や生徒会本部を中心として生徒の考えを反映させる組織づくりをする。</p> <p>③④1人1台端末の導入に向けて、教員一人ひとりのICT活用のスキルアップを行う。また、授業公開のテーマを引き続きICT活用とし、教科指導に具体的にどのような取り入れるか研究する。</p>	<p>①コロナ禍においてもどんな方法だったら交流活動ができるのか、アイデアを出し合って実施に向けて検討していく必要がある。ICTを活用した交流活動へ一歩踏み出すことを期待したい。</p> <p>②主体的に取り組んだ比率が高いのは、先生方の生徒に対する関わり的確さの表れである。</p> <p>③④目標にしている授業改善への取組を実践されていることは評価できる。</p> <p>・ICT活用については、<導入→効果測定→改善(使用の有無の見極めも含めて)>の繰り返しが必要であり、今後理想的な方向への推進が期待できる。また、生徒もオンラインを使った授業に慣れ、今後のICTを活用した交流活動についても期待をしたい。</p>	<p>①姉妹校との間では交流継続の確認は取れているが具体的な相互交流・教育活動はできなかった。今後、オンライン交流も含め実施に向けた具体的検討が必要である。</p> <p>・英検の受験者数は若干減少し、合格者割合も前年の33%から24%に低下した。英語力の低下が考えられ、英語力向上が課題である。</p> <p>・探究活動では全学年でICTを利活用し、探究活動を進めることができた。</p> <p>③④授業公開等を通して、授業改善を意識した取組の継続ができています。ICT利活用を主要なテーマとして取り組んできたが、今後は機器の操作方法ではなく、「生徒への教育効果を上げるICTの利活用」という新たなテーマを掲げて取り組む必要がある。</p>	<p>①年度当初に、交流の実施時期やオンラインでの交流を含めた実施方法について、コロナ禍における課題等を洗い出し、具体的な検討を行う。</p> <p>・英語の学力向上を意識した授業の実践と、外部試験対策の学習機会を設けるなど学校として対策を施す。</p> <p>・SDGsに係る3年間の研究成果の蓄積を次年度に引継ぎ、新しい探究活動の方法を取り入れ深めていく。</p> <p>③④端末と教科書等紙媒体や黒板の使い分け、単元指導における有効な教育機器・材料の研究などをPDCAサイクルを活用して進めていく。また、新年度入学生の1人1台端末の導入に合わせて、さらなる環境整備と教員のスキルアップの研修等も継続して行う。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①部活動の充実をとおして自己理解や他者理解を深める支援を行う。</p> <p>②交通安全指導を通してマナーの向上と事故防止に取り組む。</p> <p>③人権尊重の精神および規範意識を高める取組を推進する。</p> <p>④生徒一人ひとりの個に応じた生徒支援体制の確立を図る。</p>	<p>①部活動をととして個性を伸ばし、自主性や協調性、責任感、連帯感などを養い、好ましい人間関係を形成する。</p> <p>③④生徒一人ひとりが、のびのびと安心して学校生活を送れるようにいじめ等のトラブル防止に重点を置いた取り組みを行う。また、情報共有による協働支援体制を整え、迅速に係関係機関と連携した適切な支援を行う。</p>	<p>①部活動顧問の積極的な取組と共に、教職員間の連携を図り生徒が主体的に活動し成長できるように支援する。</p> <p>③④日々の教育活動といじめに関するアンケートや面談を通じて、実態を把握し、問題に対して迅速な対応を行う。</p> <p>・支援が必要な生徒や不登校生徒対応等について全職員の共通理解を図り、スクールカウンセラーや関係機関と連携する。</p>	<p>①部活動調査において、主体的に取り組んだと振り返る生徒の割合が参加した生徒の7割を超えているか。</p> <p>③④いじめやSNSにおけるトラブルをなくす取組を行い、問題に対して適切な対応ができたか。生徒の情報共有を図り、関係機関と連携し、生徒および保護者に適切な支援ができたか。</p>	<p>①部活動調査において、部活動に参加している生徒の9割が、部活動に入って良かったと回答した。</p> <p>③④「いじめ・学校生活についてのアンケート」を全校生徒対象に行い、アンケート内容を基に担任を中心に個人面談を実施した。管理職、学年職員、保護者が連携し、問題に対して迅速な対応を行った。</p> <p>・1学年生徒対象の「SNSトラブル防止講演会」を実施し、情報科とも連携し、生徒への啓発に努めた。</p>	<p>①満足度だけでなく、生徒が主体的に取り組める体制作りを顧問と連携し強化したい。今後は、部活動加入率を向上させる工夫をする。</p> <p>③④いじめ問題を含め、教育相談、カウンセラー相談を更に充実できるよう職員、保護者、生徒に、相談日や相談項目を示したい。また、問題発生時のマニュアルを職員に周知し、迅速に対応できる校内体制を整備する。</p> <p>・SNSのトラブルは、いじめ問題につながるもので、常に注意喚起を促し、安全で安心した生活を送れるよう生徒を支援する。</p>	<p>①先生方の支援もあり、部活動に参加している生徒も満足度は高い。貴重な社会性を育み、楽しく活動できる部活動を目指して欲しい。</p> <p>③④情報共有による協働支援体制が整えられている。今後も「いじめ」については、注意喚起を継続して欲しい。</p> <p>・コロナ禍で、人との交流が少なくなり、自分の殻に閉じこもってしまう生徒等が増える心配もある。そのような生徒への対策も大切である。</p>	<p>①生徒の満足度の高い部活動を行えている。満足度を維持しつつ、より教育効果の高い部活動が求められる。</p> <p>③④年2回の「いじめ・学校生活についてのアンケート」と、生徒理解のための個人面談を計画通り実施し、問題に対しては、管理職、学年職員、保護者が連携し迅速な対応を行った。</p> <p>・1学年生徒には「SNSトラブル防止講演会」を実施できた。SNSを利用する全校生徒への注意喚起し、安全・安心な学校生活を送るための支援を行う。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①大学等における多様な入試形態を見据え、生徒一人ひとりの進路希望実現に向けたきめ細かな支援体制を充実させる。 ②教科における学習活動と進路指導との連携を図り、生涯にわたって基盤となるキャリア教育を実施する。	①入試動向情報を的確に把握し、生徒の進路希望に沿った進路実現を支援する。 ②高大連携事業やインターンシップへの参加を積極的に進める。	①大学等の入試担当者を招き、直近の入試情報や入試対策についての講演を実施する。 ・進路指導室を拡充し、生徒との相談体制を強化する。 ②生徒の校外での活動機会を確保するため、大学・企業・事業所等に積極的な広報活動を図る。	①グループウェアシステムも活用しながら、できるだけ双方向による情報獲得を行い、進路実現の支援ができたか。 ②大学、企業、事業所等と連携事業、インターンシップへの参加ができたか。	①大学入試担当者を招き年内入試直前講習を実施した。一般入試受験者向けにも入試対策講座を2回実施した。感染状況に配慮しながら対面、リモートを使い分け予定されたガイダンスを実施し、進路実現を支援できた。 ②感染症の影響でインターンシップは実施できなかった。	①講習・講座は、各受験型の対策として一定の効果が見られたので、次年度も発展的に継続する。対面でのガイダンスの方が効果が高く、リモート時の効果を向上させる方策を模索する。 ②コロナ禍においても、安全に実施できる機会を大学、企業等と連携を取りながら探る。	①入試動向の情報を把握し、個々の希望に沿った進路指導を実現するための支援がなされており、リモート等を活用した感染防止への配慮も評価できる。今後継続して欲しい。 ②テレワーク方式でのインターンシップも実施されているので、導入の可能性を模索して欲しい。	①大学入試担当者等の協力を仰ぎ、リアルタイムの情報を生徒に提供した。また、個別相談を通して進路実現を支援した。次年度以降も充実した支援環境を整える必要がある。 ②今年度実施できなかったインターンシップの実施に向けた方策を模索する必要がある。	①生徒の進路希望に沿った支援をより充実させるために、個別相談体制を学年団と連携を取りながら整備する。 ②テレワーク方式のインターンシップの実施に向け研究を進める。特に看護医療系、保育系インターンシップの確保に向け大学、専門学校に働きかけ実践できる場を作る。
4	地域等との協働	①生徒一人ひとりが社会参画意識をもって地域や世界とつながる意識を高める支援を行う。 ②地域等と連携・協働した災害への備え、対応をさらに深める。	①学校周辺の美化活動を実施し、地域に愛される学校を目指す。 ①ボランティア活動の案内を広く周知し、生徒の積極的な参加を醸成する。 ②防災に対する意識と行動力を高め、「いのちの大切さ」、「自助・互助・公助」の意識を高める。	①各学年で、年1回学校周辺のゴミ拾い活動を実施する。 ①ボランティア活動の案内を広く周知し、生徒の積極的な参加を促す。 ②防災意識と行動力を高めることができる避難訓練を実施する。 ・地域の行政機関と連携した防災教室及び防災体験を実施するとともに、避難所運営の緊密化を図る。	①各学年、年1回学校周辺のゴミ拾い活動が実施できたか。 ①ボランティア活動に参加し、地域に参画する意識が向上したか。 ②生徒の防災意識と行動力を高めることができたか。 ・地域の行政機関と連携した防災教室を実施するとともに、避難所運営の緊密化を図ることができたか。	①1年生は学校周辺の美化活動を実施した。その他、環境美化委員会で校内掲示板ペンキ塗りを行った。 ①ボランティア活動への参加はできなかったが、生徒会本部と地域企業との連携による交通安全の看板の作成で、地域貢献への意識が高められた。 ②防災委員を対象にDIG研修を実施し、危険個所等の確認を行った。避難訓練については、通常と違う形での訓練を行い、防災意識を高めることができた。 ・地域の行政機関と連携した防災体験訓練は、コロナ禍で中止となった。	①学年単位だけでなく、生徒会活動・委員会等で積極的に地域の貢献活動としての美化活動を計画する。 ①ボランティア活動自体の機会が少ない中で、生徒への効果的な告知方法と動機付けの方法を検討する。 ②生徒の安全を考え、その時の状況に応じて、有意義な避難訓練の方法を模索する必要がある。防災意識の涵養と有事における良識的行動の意識を醸成するための訓練を考えたい。また、次年度は、地域と連携した防災の活動を模索する。	①地域貢献については、できることを生徒たちと共に考え、実行に移していくことが社会参画意識を高めることにつながる。今後の活躍に期待したい。 ②通常と違う形での避難訓練を行い、防災意識を高めたことは評価できる。 ・防災意識と行動力を高める避難訓練は地域にとって大事な取組である。有事の際に成果が発揮できるようにしたい。	①地域貢献活動については、できる範囲内で取り組むことができたが、次年度以降どのような活動にするのか検討する必要がある。 ①ボランティア活動を広く行うことができなかった。生徒自身が主体的にボランティアを行う意識を醸成する必要がある。 ②DIG研修の実施や例年と違う形での避難訓練を行い、防災意識を高めることができた。 ・地域の行政機関と連携した防災体験訓練は、コロナ禍で中止となった。次年度は実施の検討の必要がある。	①地域貢献活動については、近隣自治会と連携し地域が必要としていることを行えるよう検討していく。 ①地域交流や総合的な探究の時間での意見交換を通して、地域参画の意識を醸成する。 ②生徒一人ひとりの防災意識の涵養と有事における良識的行動に繋がる避難訓練の方法を考えて計画する。また、自治会の意見も取り入れ、地域と連携した防災の活動を検討する。
5	学校管理 学校運営	①ICT環境の整備改善を進めるとともに、HP等を活用して本校の教育活動に係る情報発信を充実させる。 ②安心・安全な教育環境の整備を充実させるとともに、事故・不祥事防止のさらなる徹底を図る。 ③働き方改革の推進に向けて、組織的な取組を進めていく。	①③年次進行的に進めてきたICT機器の整備を継続し、より多くの授業等で活用を図る。また、情報報機器の適切な管理と利活用を促進し、教材の共有化、校務処理の迅速化、効率化をさらに進める。 ①HPの更新頻度を上げ、本校の教育活動の情報発信をより増やす。 ②生徒・教職員が安心して安全に過ごせる教育環境整備の充実に向けた修繕を行う。またゴミの減量化のさらなる徹底を図り、SDGsを意識したクリーンで安全安心な環境づくりを心掛ける。	①③整備されたChrome Book等ICT機器を有効活用した授業を実践する。また、教材の共有化、Teams等を活用した校務処理の迅速化、効率化を行い働き方改革を実践する。 ①各グループ等で情報発信を積極的に進めるシステム構築を図り、発信頻度を上げ、HPを充実させる。 ②年2回の学校施設点検を実施し、修繕箇所を発見し、速やかな修繕を行う。 ②各教室にゴミ箱を設置しないことにより、生徒一人ひとりがゴミの持ち帰りを意識する環境づくりを行う。	①③各教科やHR活動等でのICT機器の効果的活用が行えたか。また、教材の共有、Teamsの活用により校務処理がより迅速化、効率化されたか。 ①各グループ等での情報発信をする頻度が増えたか。 ②年2回の学校施設点検を実施し、修繕の必要な箇所の修理を行い安全な環境を確保できたか。 ②生徒のゴミの持ち帰り意識が向上したか。	①③Google Classroomを活用して健康観察、HR連絡、教科での課題配信等を行った。また、オンラインによる双方向授業を実施した。Teamsの活用により打ち合わせ、連絡事項等、校務処理が効率的に行われるようになり業務時間の短縮を実現できた。 ①HPでの情報発信では一部のグループでは情報発信が行えるようになったが、未実施のグループもある。 ②年2回の学校施設点検を実施し、修繕箇所を洗い出すことができ、安全な環境を維持することができた。 ②各教室のゴミ箱の未設置により、生徒一人ひとりがゴミの持ち帰りを意識することができた。	①③来年度の一人一台端末に向けて、更なる効果的なICT活用を教科並びに学校全体で研究する。また、継続的なTeamsの活用による、校務の更なる効率化、業務時間の短縮を図る具体的方策を検討する。 ①HP更新研修会等を行い、各グループ職員が情報発信が行える技術身に付ける。 ②修繕箇所の洗い出しは行えたが、修繕における費用面の課題が残る ②ゴミ箱の未設置で、ゴミの放置が散見された。生徒会等と連携し、生徒への啓発活動を行う。	①③ICT環境の整備改善が進んでいるようであるが、活用し効果をあげるにはより教職員のスキルアップを図る必要がある。 ①HPでの情報発信もさることながら、若い世代につながりやすい、InstagramやTwitterのレベルでの発信でも十分である。 ②環境整備を心掛ける意識は、社会に出ても続くことであるので、生徒への啓発活動は続けて欲しい。	①③授業等の教育活動や校務に利用されているICT機器を効果的に活用できた。今後日々進歩する技術に対応すべく、教員のスキルを上げる必要がある。 ①各グループでのHP更新が行えるようになったが、さらに校内体制の整備を行い、情報発信を行う必要がある。 ②学校施設点検は行うことができたが、修繕が必要な箇所をすべて改修することができなかった。未修繕箇所の対応に課題が残る。 ②ゴミ箱の未設置により、ゴミの減量化につながった。今後は放置されるゴミへの対応が必要である。	①③教員全員がタブレット端末等を積極的に活用できるよう、活用の方法等の情報を全体で共有できる体制を整えていく。 ①HP以外の情報発信についても県の規定等も確認しながら、実施の可能性を模索した。HPの更新については、各グループでの情報発信の頻度をあげ、HPを充実させていく。 ②未修繕箇所については、事務室と連携しながら優先順位をつけて改修を行う。 ②美化意識の醸成を通して啓発活動を行うことを検討する。

